

生活の継続性を支援するために

居場所作りの基盤

呼び寄せ同居・移住の問題

本人の生活文化

- ・土地柄
- ・自然環境
- ・住居の様式(一戸建て、マンション)
- ・家の匂い
- ・お墓
- ・日課、生活スタイル
- ・言葉(方言と標準語)の違い
- ・清潔感
- ・趣味

家族関係

- 子どもとの関係
- 子の配偶者との関係
- 孫との関係
- 親族との関係・つながり
- 子の家族と親との経済的負担割合
- 子どもの勤務先の介護休業制度、介護休暇制度
- 子ども家族の子どもの養育とのバランス

地域とのつながり

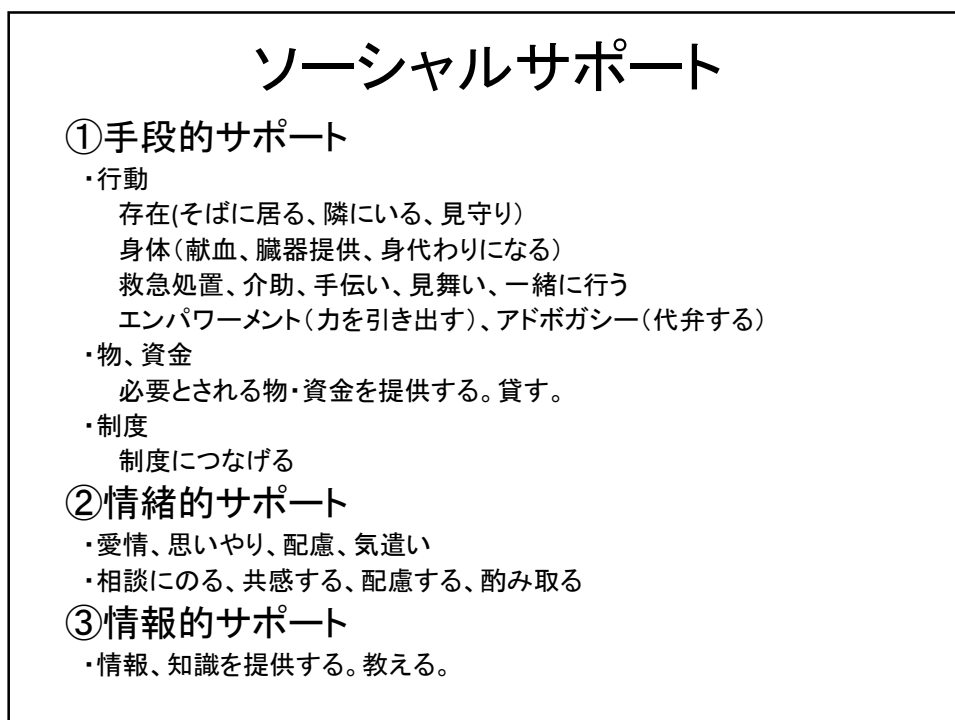
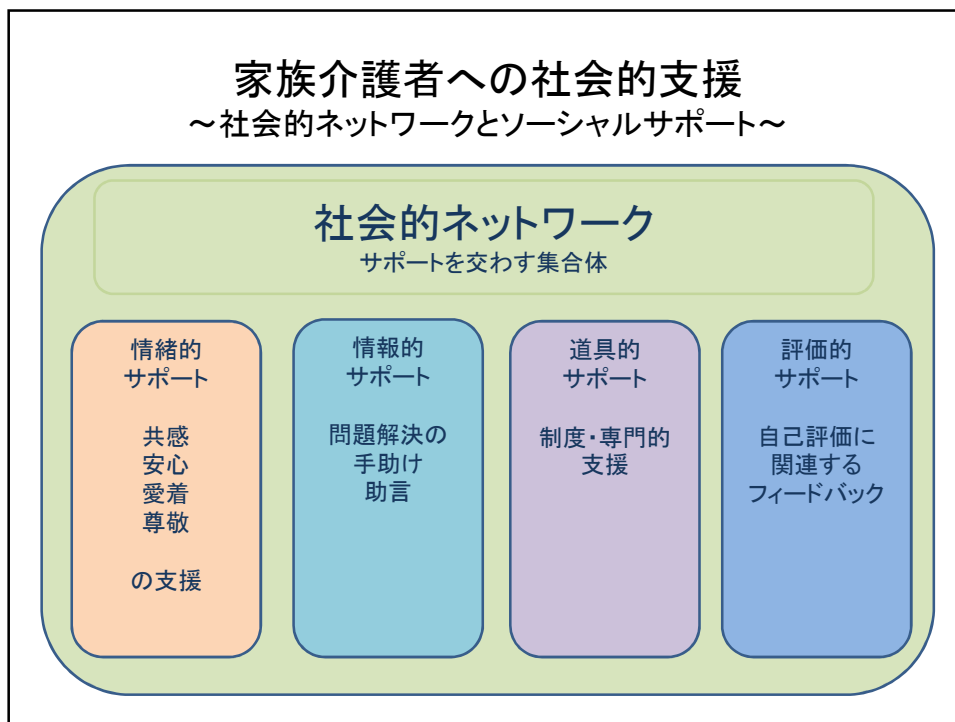
- 子以外の親族によるサポート
- 近隣のサポート(隣近所、自治会等)
- 社会参加

サービスの継続性

- 医療・医療機関、かかりつけ医
- 介護・要介護認定、介護サービス、一般行政サービス、各種減免制度の利用
- 行政機関

ハード環境

- 住居の広さ、バリアフリー
- 街のバリアフリー
- 商業施設
- 交通手段の確保、交通機関の利便性



1 主にひとりでやっている活動

①ADL(食事、入浴、排泄、移動)

食事

メニュー: 食べたいものを食べ、飲みたいものを飲む

時間: 好きな時間に食べる

方法: 自分のペースで食べる、自分専用の食器

清潔・入浴・着替え・整容

製品: シャンプー、石けん、歯ブラシ、タオル、化粧品

…自分の好み、自分専用

時間: 入りたい時に入る、

更衣・着替えのサイクル、頻度

方法: プライバシーが守られる

自分のペースで入る

排泄

トイレ: できる限りトイレで排泄する

時間: したい時に排泄する

方法: プライバシーが守られる

排泄方法や使用物品の選択枝がある

移動

自由: 自分の意思で行きたい場所に移動できる

ごろごろしていることができる

時間: 移動したいときに移動できる

方法: 杖、歩行器、車椅子等の選択ができる

1 主にひとりでやっている活動

②IADL(掃除・片付け、調理、洗濯)

③起床・就寝時間

起きたいときに起き、寝たいときに寝ることができる。

④テレビ、パソコン、映画、音楽(聴く、演奏する)、読書・学習、
筋トレ・ジョギング・自転車等の趣味

⇒見たいとき、読みたいとき、聴きたいときに楽しむことができる。

⑤自分の部屋にこもる。ひとりでポーツとする。

⇒①、②、③、④、⑤は、QOL(生活の質)の一部……無形の質

①、②、③、④、⑤が保障されることで、

自宅のようにくつろいで暮らすことが可能となる。

2 家族や友人・近隣とのつながり

- 顔を合わせる
- 会話をする
- 一緒に何かをする
(笑う、遊ぶ、ふざける、じゃれる、買い物に行く、ゆっくり過ごす、旅行に行く、映画に行く、野球観戦に行く)
- 食事を共にする
- 互いに支え合う、気遣う、親密なつながりを持つ
- 相談する、心を開く、自分の理解者がいる
- 状況がわかる
- 携帯電話で話す
- メール、SNSをする
- 動物を飼う

3 社会的活動

- 移動(バス・電車・自動車)
- アルバイト、職業活動(生産活動)
- 買い物(消費活動)
- お祭り(地域の行事)
- 学習活動、情報収集
- ボランティア活動
- 趣味、スポーツ、サークル活動
- 選挙の投票(政治への参加)

1～3の減退・喪失が意味すること

1 セルフネグレクト(自己放棄・絶望)

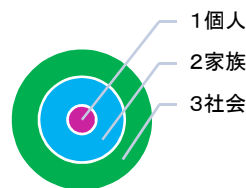
⇒自己コントロール感、自分らしさ、個性の喪失

2 情緒的孤立

⇒意欲、気力、安定感の喪失

3 社会的孤立

⇒張り合い、生きる意味の喪失



自立・尊厳・共生の喪失

居場所(property)とは

・居場所

「人などが住んでいるところ、居どころ」

日本国語大辞典 小学館

・property

①財産、資産、②地所、建物、③固有性、属性、④作品、⑤俳優、選手
ランダムハウス英和辞典 小学館

物理的環境	人的環境
個室(プライバシー、私物)	個人のお気に入りの過ごし方
住み慣れた住居	家族や親近感のある関係
地域の見慣れた自然風景・街並み	社会参加

個人のアイデンティティーは歴史的連続性と
家族や地域社会とのつながりのなかで、守られている

ひとり部屋 = 個室ではない

